

## 日本骨髄バンクの現状（平成 18 年 2 月末現在）

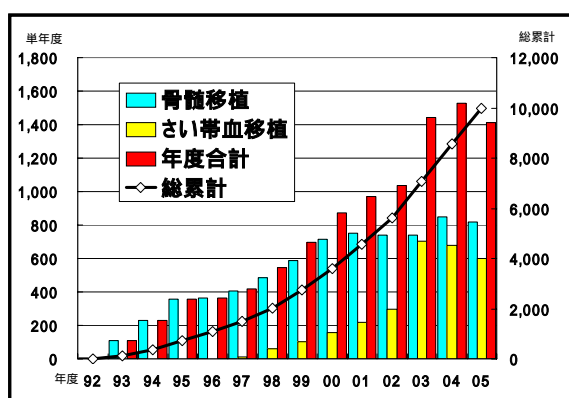
	1 月	2 月	現在数	累計数
ドナー登録者数	4,464	4,277	240,083	304,324
患者登録者数	187	192	3,203	20,076
骨髄移植例数	59	71	-	7,147

注）数値は速報値のため訂正されることがあります。

20 歳未満のドナー登録者数  
 2 月 232 人  
 合計 2,432 人（17 年 3 月～）  
 51 歳以上のドナー登録者数  
 2 月新規 175 人  
 延長 232 人  
 合計 2,541 人（17 年 9 月～）

### 1 日本での非血縁者間の骨髄移植とさい帯血移植が総累計 1 万例突破

日本骨髄バンクと日本さい帯血バンクネットワーク(11 バンク加入)が実施した非血縁者間移植の総累計が 2 月 22 日、1 万例を突破しました。骨髄バンク(7,146 例)は平成 5 年 1 月からほぼ 13 年、さい帯血バンク(2,855 例)はネットワークが発足する前に移植が始まった平成 9 年 2 月からほぼ 9 年を経ての「大台達成」です。国別の移植例数をまとめている国際機関がないため断定はできませんが、「世界トップクラス」であると考えられます。移植成績も高い数値を示しています。



3 月 8 日には、両バンク代表者による初の合同記者発表が厚生労働記者クラブで行われ、財団の正岡徹理事長などからこれまでの経緯が説明されました。10 社のメディアが参加しましたが、全国の地方紙に配信している共同通信がその日のうちに報道しています。

### 2 ドナー登録者現在数が 24 万人突破、30 万人目標まであと 6 万人

2 月の月間新規ドナー登録者数は 4,277 人で、引き続き堅調ぶりを示しています。そのため、2 月末の登録者現在数が 24 万人を突破しました。20 万人を超えたのが平成 16 年 11 月ですから、15 カ月で 4 万人増えた計算になります。このような状況が続けば、目標の 30 万人到達はあと 2 年足らずで実現する可能性があります。

また平成 17 年度の移植例数も、3 月の予定数を加えると 910 例と見込まれており、過去最多の 16 年度(851 例)を大きく上回ります。暦年数字ではすでに平成 17 年(昨年 1 月～12 月)が 915 例で過去最多となっており、年度別でも同様の記録となります。

### 3 「チャンス」の一部改訂版を 4 月発行、申込書を最終ページに

4 月より一部改訂した「チャンス」を発行します。これまで中央に綴じ込まれていた「骨髄バンクにドナー登録をされる方へ」(薄緑色の用紙)の内容を本文中に記載し、登録申込書を登録受付窓口の最終ページに入れ込みました。内容につきましても、一部見直しをしていますが、いままでの「チャンス」(平成 17 年 9 月発行)はこれまでどおり使用できます。関係者の皆さまには、別途書面で連絡いたします。

#### 4 信州大学病院のネット活用システムがコンクールで内閣総理大臣賞

信州大学医学部附属病院が導入した「無菌室内の患児向けインターネット利用のテレビ電話システム」が、第6回インターネット活用教育実践コンクール(文部科学省など主催)で最高の内閣総理大臣賞を受賞しました。また、2月24~25日の第28回日本造血細胞移植学会で担当の小児科病棟看護師が発表し、学会奨励賞にも輝きました。

このシステムは「e-MADO」と名づけられ、無菌室にいる低年齢児患者の心理状態を安定させることを目的に導入されました。無菌病室で造血幹細胞移植などの治療を受ける子どもが、無菌室から出ることなく院内学級に参加(平成17年4月から)したり、自宅にいる家族との交流(6月から)ができたりするようになっています。ネット回線は各家庭に入っているものを使い、病院からはe-MADOソフトがインストールされたノートパソコンと小型のウェブカメラが貸し出され、無菌室とのあいだをつなぎます。

昨年12月までの実績によりますと、院内学級授業には9人中6人が、自宅との交流には7人中5人が積極的に参加しました。学習時間内(9:30~15:00)には参加級に接続しつづけることが多く、さらに自宅との交流では毎日4時間かそれ以上のケースもありました。中には、自宅の飼い猫の様子を観察したり、花火大会を鑑賞できたりした児童もいました。

無菌室といえば「閉鎖された空間」というイメージが強く、大人でも精神的に落ち込むといわれますが、こうした実践について医師、看護師、母親が患児の心理面を5段階で評価したところ、「移植前と変化がない」「むしろ改善された」という前向きな評価が70%を超えたそうです。それが、ダブル受賞につながったといえますが、必要経費は同病院で2回のさい帯血移植を受けた子どもの両親から寄付された基金が充てられました。

#### 5 「一日一善」のクリック募金にご協力ください

チリも積もれば山となる のたとえ通り、クリック募金による骨髄バンクへの寄付金総額が327万円を超えています(3月14日現在)。この募金システムは株式会社ディ・エフ・エフが運営しており、「1日1クリックで1円を募金」するものです。方法は、まず同社のホームページ(www.dff.jp)にアクセス(donorsnetからも可能)し、トップページの左上にある企業名(骨髄バンクは「カカコム」)をクリックします。そうすると3つの募金先が表示されますので、最下段の「骨髄バンク」をクリック これで募金は終了です。

クリック数に応じた金額が、参加企業から寄付される仕組みになっていますが、ディ・エフ・エフのご厚意により、骨髄バンクは平成14年7月からずっと登場させていただいています。「お気に入り」に登録し、「1日1クリック」にぜひご参加ください。

#### 6 財団の会議開催予定

傍聴をご希望の方は、事前に財団事務局総務部までお申し込みください。

	公開・非公開	開催予定
理事会・評議員会	公開	3月29日(水) 14:00~17:00 法曹会館
常任理事会	公開	4月19日(水) 17:00~19:00 廣瀬ビル2階会議室